

コンサルタントの現場から

第109回

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

検査をやめる

組立より検査人員の方が多い？

随分以前のことになるが、中国にある製造拠点を訪問した時のことだ。工場を拝見すると、組立工程の後に、恐ろしいほどの検査ラインがあった。人員で言うと、組立工程の倍以上の人員が検査をしているというラインだ。これはいったいどういうことですか？と質問すると、「不良を流出させてしまったため、顧客から200%検査を指示されたので

したが、それでも不良が出てしまったので、現在は300%検査をしているのです」とのこと。当時はまだ人件費が安いこともあり、このような状況でも経営が成り立っていたのであろう。

人による検査では流出不良撲滅は困難

ところで、ここには続きがあって、「検査をしても流出不良が止まらず困っています。きちんと検査をさせるにはどう指導をするか」とい

しょうか」というのがその時の質問だった。通常、適切な検査を行なうためには、検査の手順や見方等、検査作業の標準作業化を図ると共に、良否を判定する基準を理解させ、標準作業ができるためのトレーニングを行なう。さらに不良品が検出できるかといった試験等を経て検査員にする。しかし、検査員認定まで行っても、同じ作業の繰り返しであることから緊張感を維持することは難しい。中国のローカル企業では不良を流出させると1000元の罰金というように罰則を科すことで緊張感を維持させているところもある。いずれにしても人に頼った検査では100%不良の流出を止めることは難しいというのが現実だ。従って、検査はあくまで暫定的な対策に過ぎないということ。

検査は付加価値を生まない

さらに具合が悪いのは、どれだけ検査をしても100パーセントの品は100パーセントであり120パーセントにはならないということ。検査は付加価値を生まない作業の代表だ。100%良品の品が製造できないために生じるムダな作業が検査とも言える。

検査をやめる

ところで、検査しなくても100%良品の品を作り込むために、どれだけ知識を出しているだろうか。法令等で定められた検査は別にしても、検査をすべてやめると考えてみたらどうだろうか。そんなことは恐ろしくてできないということではあ

る。改善ネタが多いということだ。

ちなみに、冒頭の中国の工場では、組立工程であったので、ポカよけの方法・視点を講義したのだが、設計段階から、間違った組立ができない、取り付け忘れがない、逆向きに取り付けができない等、絶対に作業ミスができない設計にする必要がある。DRでもこのような視点で品質リスクを抽出することが肝要だ。品質対策は人起因にしないという人が注意しないといけないような作業をさせていること自体が問題と認識することが対策と第一歩と言える。

品質を作り込む工場

色々な工場を拝見させていたと、工程で品質を作り込むという姿勢が徹底されている工場もある。例えば、清掃一つも清掃点検というレベルで行われており、予保全という位置付けでの清掃が徹底されている。そのような工場は金型の整備や管理にもその姿勢が表れている。金型はものづくりの命とも言えるが、金型の変形や摩耗・損傷がなく、汚

れがないように徹底して管理されている。実際、金型に錆があるような工場ではまともな品質は確保できない。また、工程でも作業ミスがされないような配慮がされている。部品間違いや部品の取り付け忘れができない仕組みができてい

MÖVENPICK
RESIDENCES EKKAMAI
BANGKOK

バンコクのご自宅で
おくつろぎください

特別な
オープン記念
プロモーション
期間限定

オープン記念プロモーションでは家具完備のお住まいをお得な料金でご提供いたします。

本日から2017年9月30日まで、1ベッドルームのユニットは30,000++パーツより、2ベッドルームのユニットは45,000++パーツよりの料金となります。ご入居のお客様には2日間のカオヤイ旅行(2名様ディナー付き)を無料でお楽しみいただけます。

詳細に関するお問い合わせやご予約は、
Residences.Ekkamai.Reservation@movenpick.com 宛に電子メールをお送りいただくか、+66-2-3786969までお電話ください。

movenpick.com